

(社) 日本原子力学会 標準委員会 原子燃料サイクル専門部会  
第12回 LLW廃棄体等製作・管理分科会 (F9Ph2SC)

1. 日時 2009年2月4日 (火) 10:00~12:20
2. 場所 日本原子力発電(株)本店 2階 第2, 第3会議室
3. 出席者 (順不同, 敬称略) (開始時)  
(出席委員) 阿部(主査), 小倉(幹事), 柏木, 河西, 坂下, 櫻井, 三本木, 高橋, 中瀬,  
中山, 土生, 水越 (12名)  
(欠席委員) 岡本(副主査), 大浦 (2名)  
(常時参加者) 伊藤, 大塚, 三根, 山田, 御子柴, 菊池, 大内(武部委員候補代理) (7名)  
(欠席常時参加者) 大間, 藤井, 熊野, 杉山, 中山 (5名)  
(傍聴) 片寄(委員候補), 北島(常時参加者候補), 中村, 小林, 森山, 鯉淵, 吉田 (7名)  
(事務局) 谷井
4. 配付資料  
F9Ph2SC12-1 第11回 LLW 廃棄体等製作・管理分科会議事録(案)  
F9Ph2SC12-2 標準委員会の活動状況  
F9Ph2SC12-3 人事について  
F9Ph2SC12-4-1 「余裕深度処分対象廃棄体の製作に係わる基本的要件(案)」の原子  
燃料サイクル専門部会書面投票への対応案  
F9Ph2SC12-4-2 「余裕深度処分対象廃棄体の製作に係わる基本的要件」標準の標準委  
員会本報告案(サイクル専門部会書面投票資料との新旧比較表)  
F9Ph2SC12-4-3 【標準委員会 本報告】「余裕深度処分対象廃棄体の製作に係わる基  
本的要件(案)」について  
F9Ph2SC12-4-4 「余裕深度処分対象廃棄体の製作に係わる基本的要件(案)」の標準  
委員会中間報告コメント及びサイクル専門部会コメント対応一覧  
F9Ph2SC12-4-5 日本原子力学会標準 余裕深度処分対象廃棄体の製作に係わる基本  
的要件: 200\*(案)  
F9Ph2SC12-5-1 L1 廃棄体品質確認基準(中間報告): 第35回専門部会コメント対応  
方針(案)  
F9Ph2SC12-5-2 L1 廃棄体品質確認基準(中間報告): 第34回標準委員会コメント対  
応方針(案)  
F9Ph2SC12-6 L3 対象廃棄物の取扱い方法と品質確認方法に関する標準化の進め方  
について(案)  
F9Ph2SC12-7 「LLLW 廃棄体等製作・管理分科会」の予定案  
F9Ph2SC12-参考1  
低レベル放射性廃棄体等の製作・検査方法の標準化について

## 5. 議事

### (1) 出席委員の確認

事務局より、開始時に 12 名の委員の出席があり、分科会成立に必要な委員数 (10 名以上) を満足している旨の報告が行われた。

### (2) 前回議事録 (案) の確認 (F9Ph2SC12-1)

事務局より、第 11 回 LLW 廃棄体等製作・管理分科会の議事録 (案) が紹介され、承認された。

### (3) 標準委員会の活動について (F9Ph2SC12-2)

事務局より、標準委員会の活動状況について、説明が行われた。

### (4) 人事について (F9Ph2SC12-3)

#### ① 報告

事務局より、片岡 秀哉氏 (関西電力 (株)) 及び小倉 一知氏 (日本原子力発電(株)) の委員の退任報告があった。

#### ② 承認

事務局より、新委員として、東 利彦氏 (関西電力 (株))、宮本 智司氏 (日本原子力発電 (株))、武部 慎一氏 (日本原子力研究開発機構) 及び片寄 直人氏 (日本原子力技術協会) の推薦されている旨紹介され、それぞれについて決議した結果、全員が新委員に選任された。

また、事務局より、北島 英明氏 ( (財) 原子力環境整備促進・資金管理センター) 及び小倉 一知氏 (日本原子力発電(株)) の常時参加者登録の希望があるとの紹介が行われ、決議の結果、承認された。

### (5) 幹事の指名

幹事である小倉委員の退任に伴い、新幹事として片寄委員が指名された。本件に関し、岡本副主査が欠席のため、事前に幹事交代の件について電話にて了承いただいていることも阿部主査より合わせて説明された。

### (6) 「余裕深度処分対象廃棄体の製作に係わる基本的要件 (案)」の専門部会書面投票への対応及び標準委員会への本報告について

中瀬委員より、先般実施された「余裕深度処分対象廃棄体の製作に係わる基本的要件 (案)」に対する原子燃料サイクル専門部会書面投票の結果が、賛成 22、反対 0、意見付保留 2 で可決されたことが報告され、その際出された意見等への対応案が F9Ph2SC12-4-1 に基き説明された。

また、中瀬委員より対応案を踏まえた標準案の修正箇所などが F9Ph2SC12-4-2、F9Ph2SC12-4-3 に基き説明され、このうち、「4.2.1 固化による放射性廃棄物の固体状化」

については、「固型化」とするなど案を一部修正することとし、分科会として2/12の第36回原子燃料サイクル専門部会へ報告することが了承された。

さらに、中瀬委員より F9Ph2SC12-4-3, F9Ph2SC12-4-4 に基づき原子燃料サイクル専門部会で了承が得られた後、2/23の第35回標準委員会へ本報告する資料案が説明され、了承された。

(7) L1 廃棄体品質確認標準（中間報告）へのコメント対応方針について

山田常時参加者より F9Ph2SC12-5-1, 2 に基づき、先般行われた原子燃料サイクル専門部会、並びに標準委員会における L1 処分対象廃棄体の品質確認標準の中間報告の際出されたコメントについての対応方針が説明され、下記の点の意見を含めて修正案を作成することとなった。

- ・ 標準委員会コメントのうち、QMS に関して現状の本体記載内容のままではコメント通りと捉えられることから、解説の趣旨であるならばそれとの整合性をとるべき。その際、標準としては「品質確認」としているが附属書 F では「自主検査」としていることの整理も必要。
- ・ 標準委員会コメントのうち、「品質確認」については、過去の経緯があり、現状仮称としているが、委員会からコメントされていることから、検討すること。

(8) L3 対象廃棄物の取扱い方法と品質確認方法に関する標準化の進め方及び分科会の予定案について

片寄幹事から、F9Ph2SC12-6 及び F9Ph2SC12-7 に従い、L3 対象廃棄物の取扱い方法と品質確認方法に関する標準化の進め方及び分科会の予定案について説明があり、次の質疑応答のうへ、本基本方針とスケジュール案に沿って、今後、標準化の審議を進めていくこととした。

- ・ 分科会の進め方に関して、L3 対象廃棄物の標準化に並行して「L1 処分対象廃棄体の製作に係わる基本的要件」の公衆審査及び「L1 処分対象廃棄体の品質確認方法」の本報告等のスケジュールに合わせるか、並行して進めるかなどの調整を必要に応じて行うこととする。
- ・ L3 対象廃棄物の検討予定期間が1年弱と短い、検討する廃棄物についてある程度範囲を絞って標準化の審議を進めるのか？  
→検討対象範囲としては、F9Ph2SC12-参考1に記載の通り、当面、原子力発電所の運転中および解体時に発生する低レベル放射性廃棄物に絞って検討を進める。

6. その他

次回分科会は、平成21年4月2日（木）午後に仮決めされた。

以 上